

——と殺後の牛肝臓内保菌試験(胆囊管結紮の効果)——

目的:肝臓内部の腸内細菌類の保有状態と胆囊管を結紮することによる効果を観察する

検体No. 1 と殺後5日目の採材(胆囊管結紮あり)

検体No. 2 と殺後3日目の採材(胆囊管結紮あり)

検体No. 3 と殺後3日目の採材(胆囊管結紮なし)

検体No. 4 と殺後5日目の採材(胆囊管結紮なし)

1

と殺・開腹(25~30分)→内蔵検査(5分)→直ちに胆囊と肝臓(総肝管)との間で胆囊管を結紮(結紮ありの場合)。すべての検体で肝臓と十二指腸側との間の連絡(総胆管、肝門脈)を結紮したが、肝動脈と肝静脈は結紮されていない。



表面を洗浄・消毒・冷却、6時間後に運送会社が引取り



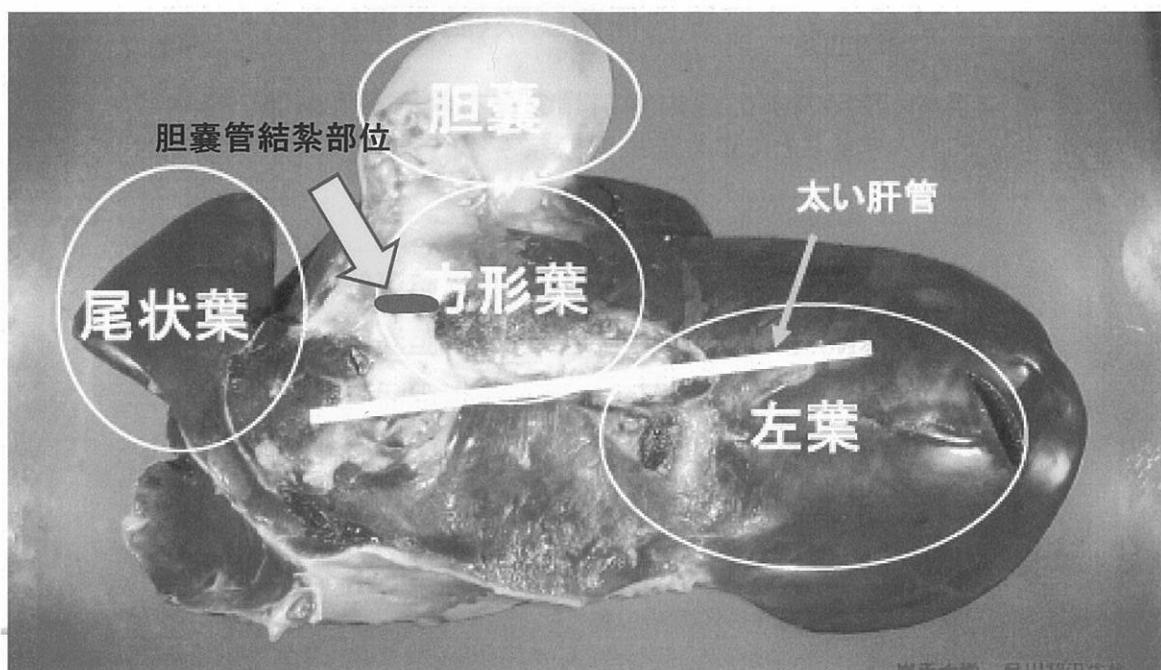
検体輸送(冷蔵保管)



細菌検査まで冷蔵保管(東大) 5~6°C

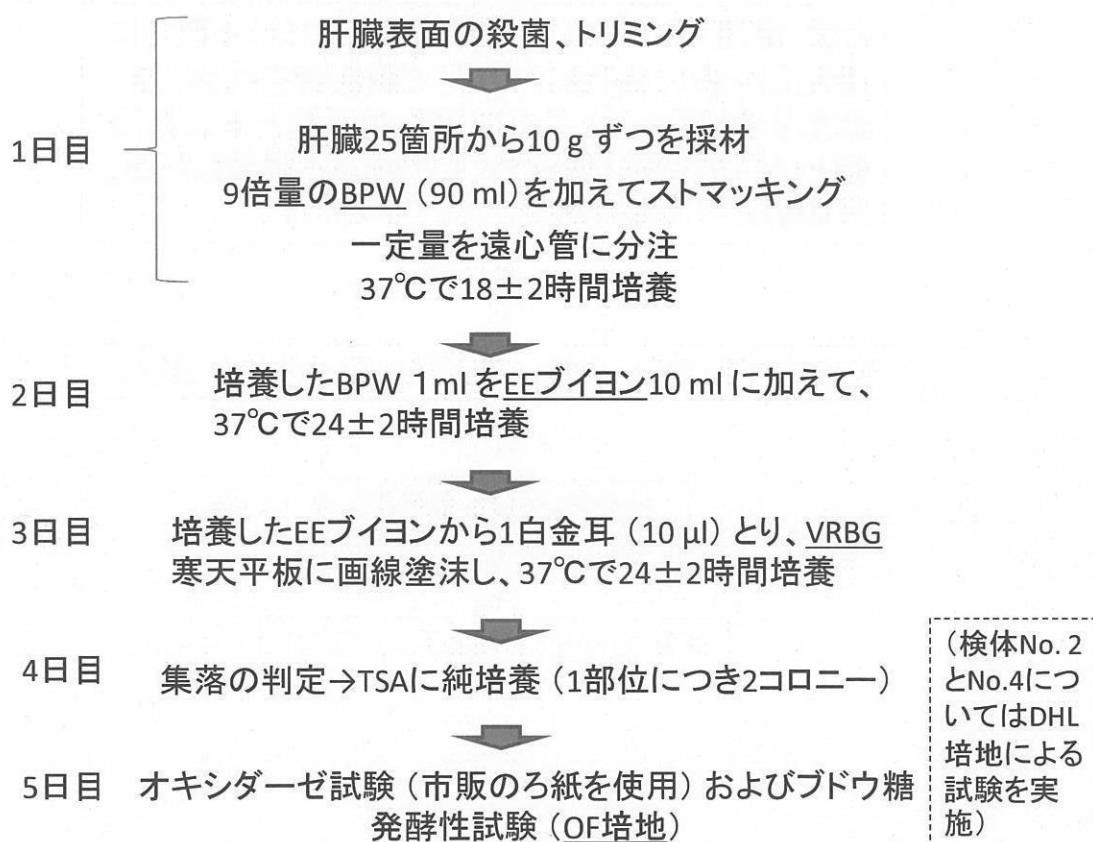
2

肝臓の外観と胆管の結紮部位



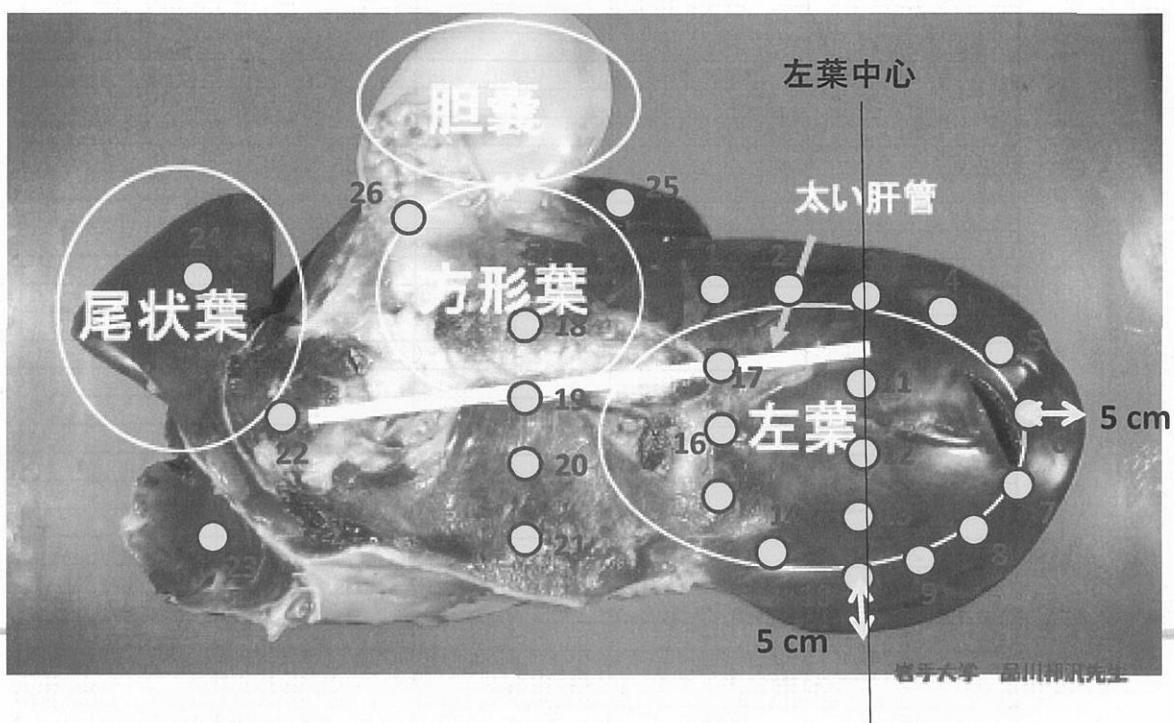
3

細菌培養・検査のフロー



4

サンプリング部位

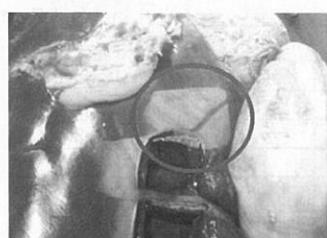


5

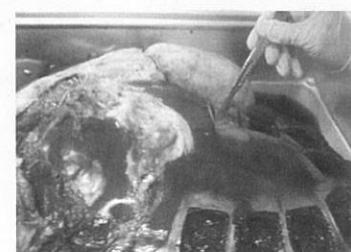
採材の流れ



アルコール綿でレバー表面を消毒した後、バーナーで熱したヘラをレバーに押し付ける(表面からの生菌混入防止)



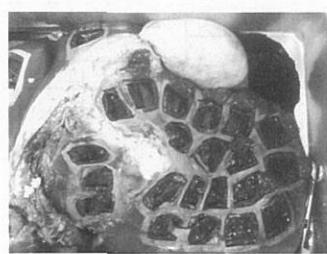
熱せられた表面



メスで加熱表面を剥ぐ
(トリミング)



肝実質から10 gを採材



25か所から採材
胆嚢(胆汁)からも採取



採材時の外観

6

結果

採材部位	肝臓の部位別の腸内細菌検出状況			
	腸内細菌の発育			
	* 3日 No. 2 結紮あり	3日 No. 3 結紮なし	5日 No. 1 結紮あり	5日 No. 4 結紮なし
1	+	+	-	+
2	+	+	+	+
3	+	+	+	+
4	-	+	+	+
5	+	+	+	+
6	+	+	+	+
7	-	+	+	+
8	-	+	+	+
9	+	+	+	+
10	-	+	+	+
11	-	-	+	+
12	-	+	-	+
13	-	+	-	+
14	+	+	+	+
15	-	+	+	+
16	-	+	+	+
17	+	+	+	+
18	+	+	+	+
19	+	+	+	+
20	+	+	+	+
21	+	+	+	+
22	-	+	+	+
23	+	+	+	+
24	-	+	+	+
25	-	+	+	+
26	-	+	NT	-

*と殺後日数および胆囊管結紮の有無 NT: Not tested 26:胆囊内の胆汁

7

検体番号	2
と殺日	2012/2/24
採材日	2012/2/27
と殺後日数	3日
胆囊管結紮	あり

検体番号	3
と殺日	2012/3/2
採材日	2012/3/5
と殺後日数	3日
胆囊管結紮	なし

検体番号	1
と殺日	2012/2/17
採材日	2012/2/22
と殺後日数	5日
胆囊管結紮	あり

検体番号	4
と殺日	2012/3/7
採材日	2012/3/12
と殺後日数	5日目
胆囊管結紮	なし

採材部位	腸内細菌	コロニー/ DHL培地
1	+	赤
2	+	赤
3	+	赤
4	-	なし
5	+	赤
6	+	赤
7	-	なし
8	-	なし
9	+	赤
10	-	赤
11	-	なし
12	-	なし
13	-	なし
14	+	赤
15	-	なし
16	-	なし
17	+	赤
18	+	赤
19	+	赤
20	+	赤
21	+	赤
22	-	なし
23	+	赤
24	-	なし
25	-	なし
26	-	なし

採材部位	腸内細菌
1	+
2	+
3	+
4	+
5	+
6	+
7	+
8	+
9	+
10	+
11	-
12	+
13	+
14	+
15	+
16	+
17	+
18	+
19	+
20	+
21	+
22	+
23	+
24	+
25	+
26	+

採材部位	腸内細菌
1	-
2	+
3	+
4	+
5	+
6	+
7	+
8	+
9	+
10	+
11	+
12	-
13	-
14	+
15	+
16	+
17	+
18	+
19	+
20	+
21	+
22	+
23	+
24	+
25	+
26	+

採材部位	腸内細菌	コロニー/ DHL培地
1	+	赤
2	+	赤
3	+	赤
4	+	赤
5	+	赤
6	+	赤
7	+	薄黄色
8	+	赤
9	+	赤
10	+	赤
11	+	赤
12	+	赤
13	+	赤
14	+	赤
15	+	赤
16	+	赤
17	+	赤
18	+	赤
19	+	赤
20	+	赤
21	+	赤
22	+	赤
23	+	赤
24	+	赤
25	+	赤
26	-	なし

26:胆囊内の胆汁

8